

2024 年度会津若松経営品質賞 表彰組織紹介

株式会社太郎庵

《組織概要》

株式会社太郎庵（以下太郎庵略記）は、1979年の創業より「お菓子で描く会津の風土」をテーマに、太郎庵宣言として「わたしたちは、いのちにやさしい、心ときめくお菓子を通して会津の風土を描き、お客様と共にやすらぎとぬくもりのある、しあわせ文化を創造します。」を使命とし、太郎庵経営計画書の展開を通じて組織を成長させてきました。

「本日開店の心」「ランプの心」といった創業の精神を大切にしつつ、2019年の社長交代以降、ありがたい姿を「未来日記」の形式でとりまとめ全社員で思いの共有をはかっています。

「経営計画書」を軸とする太郎庵独自のマネジメントは、毎日の「社長通信」と付箋紙による活用しやすい日報のやりとりによって共有がはかられ、社員一丸となった店舗運営や製造管理が実現しています。経営者は、経営品質をはじめとしたさまざまな学びを工夫しながら自社に取り入れ、こうした仕組みを進化させてきました。

たとえば、「経営計画書」をノート形式にすることによって、1人ひとりが毎日書き込みができるようにしたり、個人の「未来日記」を記入するようになるといった工夫が進んでいます。「社長通信」も社長以外の常務や幹部も記述したり、「仲良し会議」も報告形式からグループ発表形式にしていくなど、トップダウン型から参加型リーダーシップへの変化がみられます。

こうした活動によって、組織能力の向上が図られており、「会津にあって日本を代表するお菓子屋」への挑戦が着実に継続されています。

顧客価値経営ガイドラインに基づく審査を通して認められた「表彰理由」は以下の通りです。

表彰理由

【さまざまな学びを取り入れ、変革活動を進化させている】

「本日開店の心」「ランプの心」といった創業の精神を大切にしつつ、2019年の社長交代以降、ありがたい姿を「未来日記」の形式でとりまとめ全社員で思いの共有をはかっています。

「経営計画書」を軸とする太郎庵独自のマネジメントは、毎日の「社長通信」と付箋紙による活用しやすい日報のやりとりによって共有がはかられ、社員一丸となった店舗運営や製造管理が実現しています。

経営者は、経営品質をはじめとしたさまざまな学びを工夫しながら自社に取り入れ、こうした仕組みを進化させてきました。

たとえば、「経営計画書」をノート形式にすることによって、1人ひとりが毎日書き込みができるようにしたり、個人の「未来日記」を記入するようになるといった工夫が進んでいます。「社長通信」も社長以外の常務や幹部も記述したり、「仲良し会議」も報告形式からグループ発表形式にしていくなど、トップダウン型から参加型リーダーシップへの変化がみられます。

こうした活動によって、組織能力の向上が図られており、「会津にあって日本を代表するお菓子屋」への挑戦が着実に継続されています。

【社員同士の仲の良さとお互いが協力しあう独自の風土が形成されている】

店舗、工場、支援部門、どちらの部署においても、お互いの役割を認識して協力しあう風土ができあがっています。こうした風土が、店頭においては、お客様がご来店いただいたときに感じる、おもてなしの雰囲気や醸成しており、工場においても、かけがえのない食をつくる気持ちによって丁寧な仕事実践され、センターピンである「安定した美味しいお菓子」「安心できる親切なサービス」の実現につながっています。

こうした風土は長年かけて培われてきたものであり、他社が真似できない独自能力として社内に根付いています。時代のトレンドやIT環境、働き方に関する意識の変化は今後も進んでいくものと思われますが、その際、どのような変革活動を進めるとしても、こうした独自の強みを決して失わないように実践していただけることを強く望みます。

【スピード感ある商品開発によって多様な体験価値を提供している】

お菓子で描く会津をコンセプトに、季節ごとに魅せる会津の美しい風景や地元食材を取り入れたり、会津の歴史に根ざした商品を開発提供する事で、「日常の中の非日常」を演出しています。実際、2022年から2023年の2年間に約20種類の新商品や既存商品の改良版が提供されるなどスピード感をもって提供されています。

最近では、経営層からの発案だけでなく現場社員や入社2～3年目社員からも提案が出てくるようになっており、次のステップにむけた期待が持てるようになってきています。

以上